

9. 計画実現の方策と推進体制

市の将来像（めざすまちのすがた）実現に向けては、市民、地域、関係団体、事業所及び行政がそれぞれの特性に応じた役割を果たし、相互に連携、協力を図りながら、計画の推進に取り組んでいかなければなりません。

まちづくりの進捗状況を共有するための方策と、推進体制について次のとおり整備し、着実な計画推進を図ります。

(1) 計画の進行管理・評価

本市では、長期振興計画を適切に進行管理し、政策の達成度を高めていくために、行政評価制度を導入して、活用してきました。

行政評価とは、常に市民目線に立って、目標とその達成度を示す指標を定め、データによる客観的な評価を行い、次年度以降の事業の改善に結びつけていく一連の仕組みのことです。

第6次長期振興計画後期基本計画においても、各分野の達成度を「計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）」のPDCAサイクルに基づき管理していくこととし、そのチェック体制の構築と継続的な実施により、成果が着実に上がるよう進行管理を行っていきます。

本計画の重点プロジェクトでもある「西之表市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組についても、アウトカム指標⁷⁷を原則とした重要業績評価指標で検証し、PDCAサイクルによって改善していくこととしています。

検証については、庁内においてその結果をしっかりと把握した上で、市民代表から構成される審議会などにおいて事業実施後の結果の評価、改善策や次の施策展開（計画・実施）の検討など、計画全体のフォローアップ⁷⁸を行うこととし、本市の取り巻く状況なども勘案しながら、基本計画についても、毎年度必要な見直しを行い、実効性の高い計画としていきます。

また、その結果については、市の広報紙やホームページ、校区説明会、出前講座などを通じて広く公表し、市民との情報共有を図り、行政がどういった考えに立って計画を進めていくのかをしっかりと説明していきます。

⁷⁷ アウトカム指標…施策・事業の実施により発生する効果・成果（アウトカム）を表す指標

⁷⁸ フォローアップ…ある事柄を徹底させるために、その後の進展などを継続的に調査したり、効果を確認するために再度行なったりすること

【PDCA サイクルによる計画の進行管理のイメージ】



(2) 施策の優先度・重点化

限られた経営資源を有効的・効率的に配分した上で、本計画の実効性を高め、着実な推進を図っていくために、検証結果を踏まえ、成果向上優先度と資源投下優先度を検討し、次年度以降に優先すべき施策を明確化し、公表していきます。

その協議においても、行政評価による PDCA サイクルを活用していきます。

成果向上優先度が高く、資源投下優先度も高い施策については、「成果」の更なる向上を図るため、経営資源（予算）も投入していくものとして、次年度予算編成においても特に重点的に配分して、本計画と連動を図っていきます。

成果向上優先度も資源投下優先度も低い施策については、廃止や抜本的見直しを行うとともに、市民や民間などの主体的な取組により成果の向上が期待される施策については、市民と行政との協働によるまちづくりを進めていくこととします。

行政評価については、計画の進行管理を図る上で非常に重要な仕組みとなることから、作業の効率化と評価の質の向上を図るため、毎年、改善を進めていきます。